

東京中央卸賣市場本場の規模 及び工事状況

東京市技師 近藤伊三郎

1. 中央卸賣市場の目的

中央卸賣市場は、大正十二年に発布された中央卸賣市場法に則り、法定食料品の取引組織を改善し、輸送、貯蔵、配給並に衛生的施設を完備し、都市及び之に隣接する地方住民に對し、新鮮なる食料品の供給を圓滑にし、價格の公正を期するのが目的である。

2. 東京市に於ける事業計畫

東京中央卸賣市場は、東京市によつて開設されるもので、本場及その分場たる神田分場、江東分場及郊外の四分場より成る。この内神田分場と江東分場は既に竣工し、殘る郊外四分場（新市内）は目下計畫中である。

本場は帝都復興事業の一つで、建設費總額15,000,000圓、京橋區築地四丁目に位し、敷地面積約58,600坪を有してゐる。建築は昭和五年八月に冷蔵庫及製氷工場の基礎杭打工事に着手し、本年六月完成、續いて他の主要建築物及諸設備を本年以内に完成せしめる豫定で工事を進めてゐる。

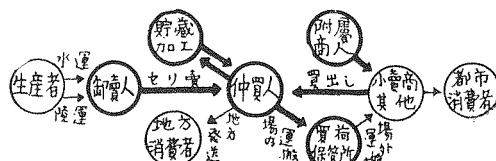
本場に於ける食料品取扱品目及數量の大約は次の通りである。

(イ)魚類部	鮮魚介	一日取扱量	700尾
	鹽干魚	"	200尾
(ロ)果青部	蔬菜果實	"	420尾
(ハ)鳥卵部	食鳥	"	200籠
	卵	"	1,200箱

而して建築的には之を魚類部、青果鳥卵部の二部に大別する。

3. 中央卸賣市場の職能

中央卸賣市場では主として耀賣によつて現金取引をし、賣買價格及取引高を公表して、價格の公正並に資金の運轉を圓滑にし、生産者及消費者の利益を計るようとする。その職能を要約すれば次の通りである。



從つて中央卸賣市場に必要な建築物は、卸賣人賣場、仲買人賣場、買荷保管所、附屬商賣場、以上に附屬する事務所、食堂等の他、貯藏及加工場としては、冷蔵庫、製氷工場、バナ、醸酵室、芋流場、生洲、蛸茄場等である。

4. 主要建築物の概要 並に工事の現況

(1) 第一卸賣人賣場・事務所・其他

延面積5,421坪、魚類部4,071坪、青果鳥卵部1,50坪で、魚類部一階2,164坪、二階1,942坪、三階300坪、屋階20坪、地階138坪、地下道207坪、青果鳥卵部一階754坪、二階430坪、屋階8坪、地階158坪となつてゐる。

主として鉄筋混凝土造、プラットホーム鐵骨造、波型石綿スレート葺、基礎ペデスタイル杭打地形、一階はプラットホーム、捌所及卸賣場で、魚類部は花崗石板石敷、青果鳥卵部はソリデチット鋪装である。この卸賣市場は



(1) 昭和六年十二月二十日工事全景

鐵道に依る荷物を取扱ふ處で、取扱數量は一日約魚類鮮魚500噸、鹽干魚200噸、青果250噸、鳥200籠、卵1,200箱である。

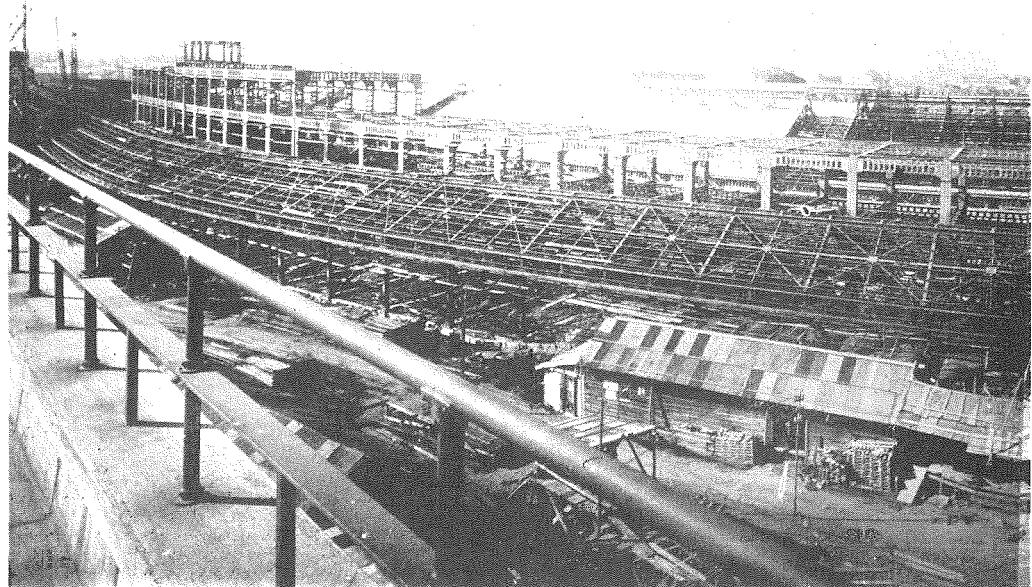
階上は事務室、銀行、郵便局、食堂、大集會室、電話交換室等を設置し、渡廊下によつて魚類部と青果鳥卵部とを連絡する。地階は倉庫として、地下道をつくつて卸賣場と冷蔵

庫とを連絡する。

工事は魚類部は昭和七年一月、鴻池組の請負によつて施工中である。青果鳥卵部は昭和七年一月勝呂組の請負で施工中である。尙本建物の基礎は昭和六年五月東洋コンプレツタル會社の請負で着手同年十月竣工した。

(2) 第二卸賣人賣場

魚類部一階 582坪、二階82坪、青果部一階





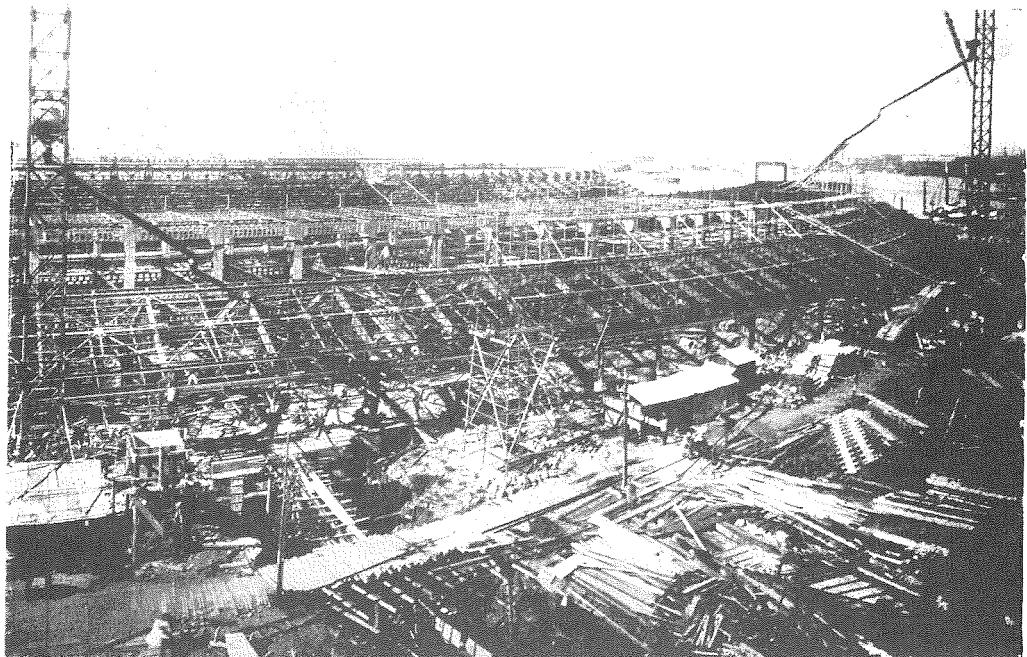
387坪、二階64坪で、構造は主として鐵骨造平家建波型石綿スレート葺、一部鐵骨鐵筋混泥土造二階建、基礎松杭打地形で、一階は卸賣場とし魚類部は花崗石板石敷、青果部は膠石鋪裝で、三階には食堂を設置する。この卸賣場は近海及近縣から輸送される荷物、所謂地廻り物を取扱ふ處で、その取扱量は一日約魚類200噸、青果170噸である。

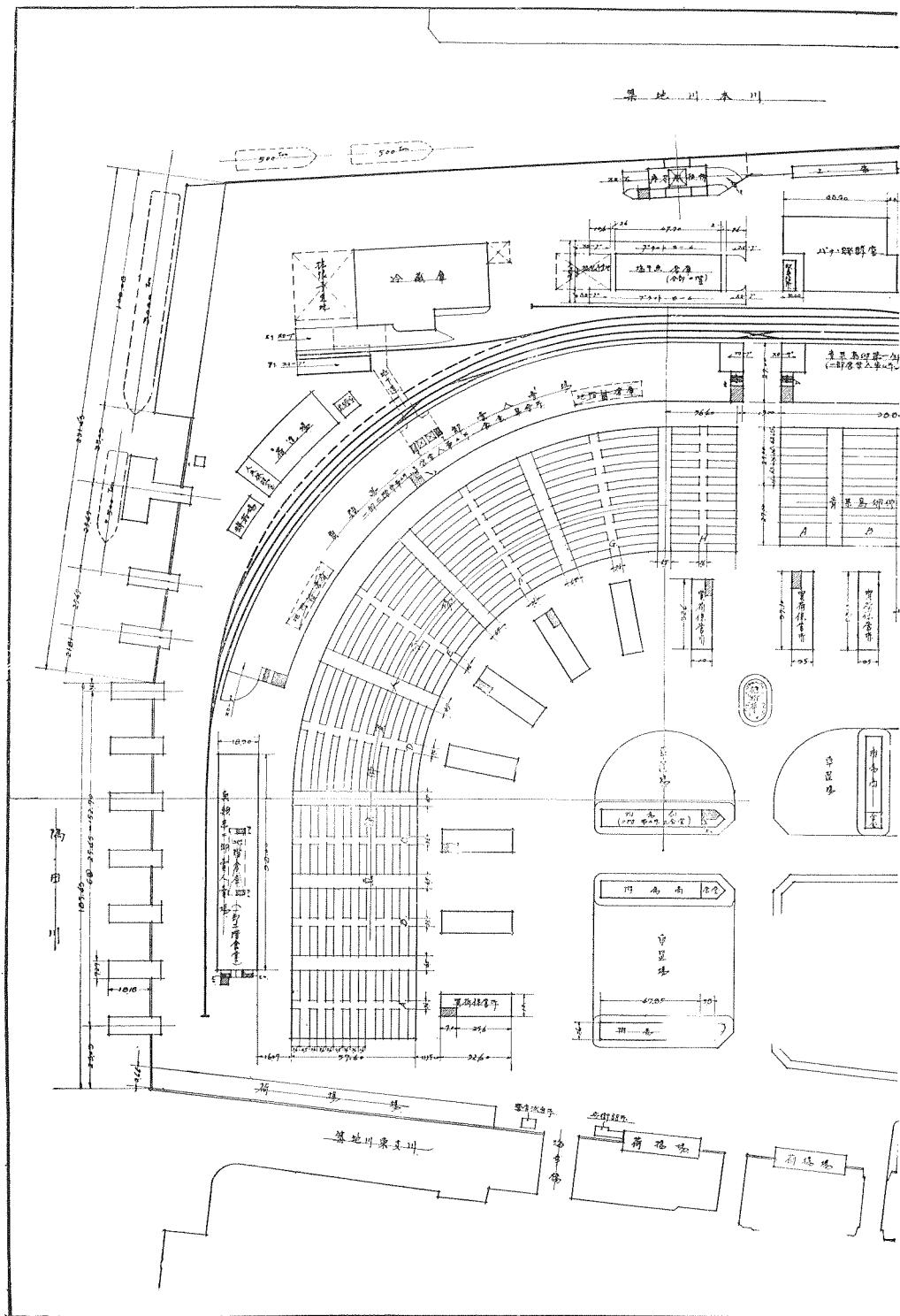
工事は魚類部は昭和六年八月大倉土木株式會社の請負で起工、目下工事中である。青果部は昭和六年八月堀内組の請負で起工、七年九月六日竣工した。

(3) 仲買人賣場

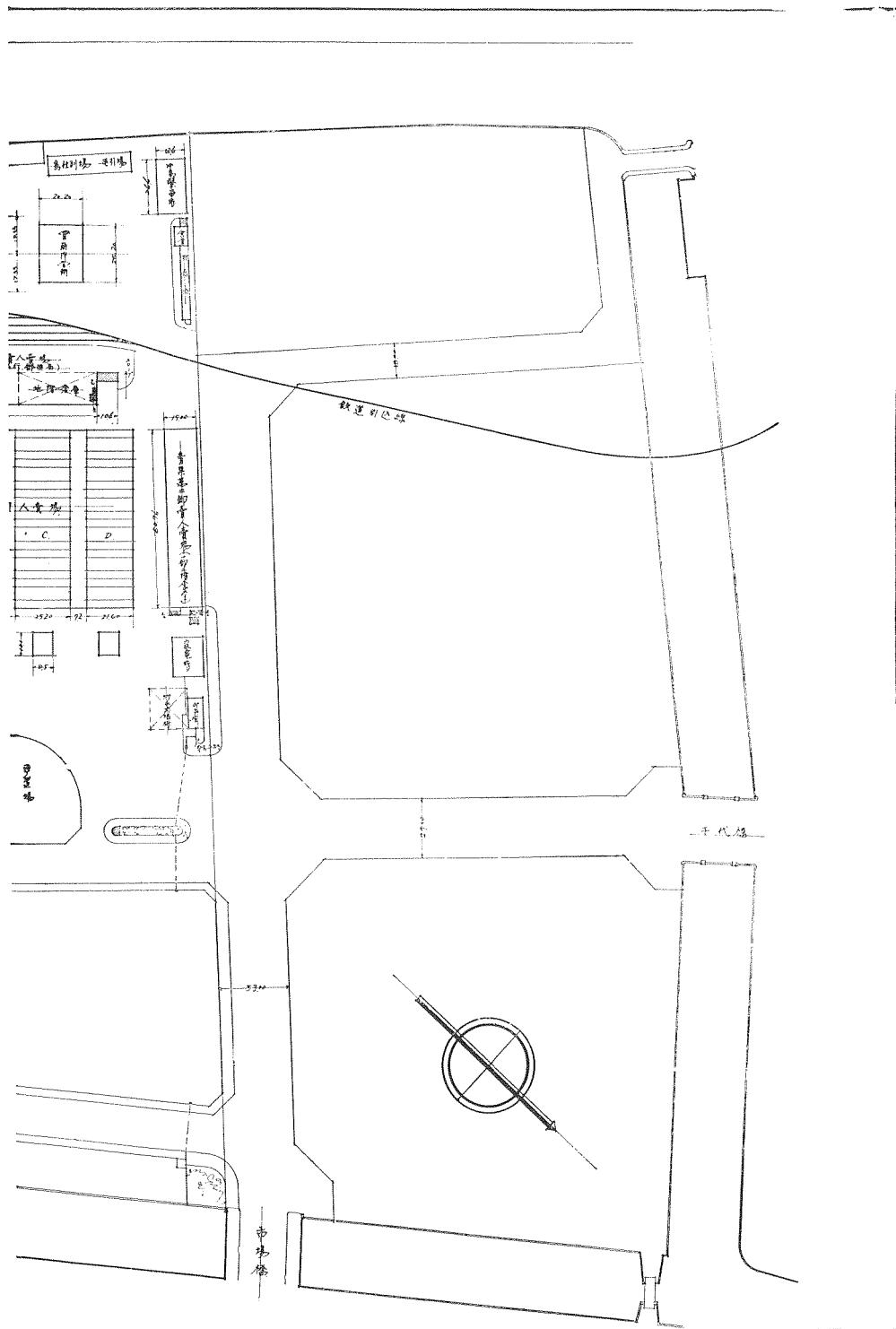
延面積8,702坪、内魚類部賣場2,543坪、通路3,837坪で、青果部賣場1,019坪、通

(2) 昭和七年八月、
類魚第二卸賣人賣場





東京中央卸賣市場本場配置圖。



路 1,304坪である。構造は鐵骨造平家建波型石綿スレート葺、基礎松杭打地形、賣場は取引、衛生、品物の保存上可及的に天井を高くし、見透しを完全にし、採光は主として天井及腰屋根から取り、棟には換氣用小屋根を設け、腰屋根側面及妻サッシュはオペレーターによつて隨時開放出来る様にし換氣に便にする。床は賣場モルタル塗四半目地附、通路は止タイル敷及ソリデッドット鋪装とする。仲

(3) 工事全景、七年六月九日(對照平面)

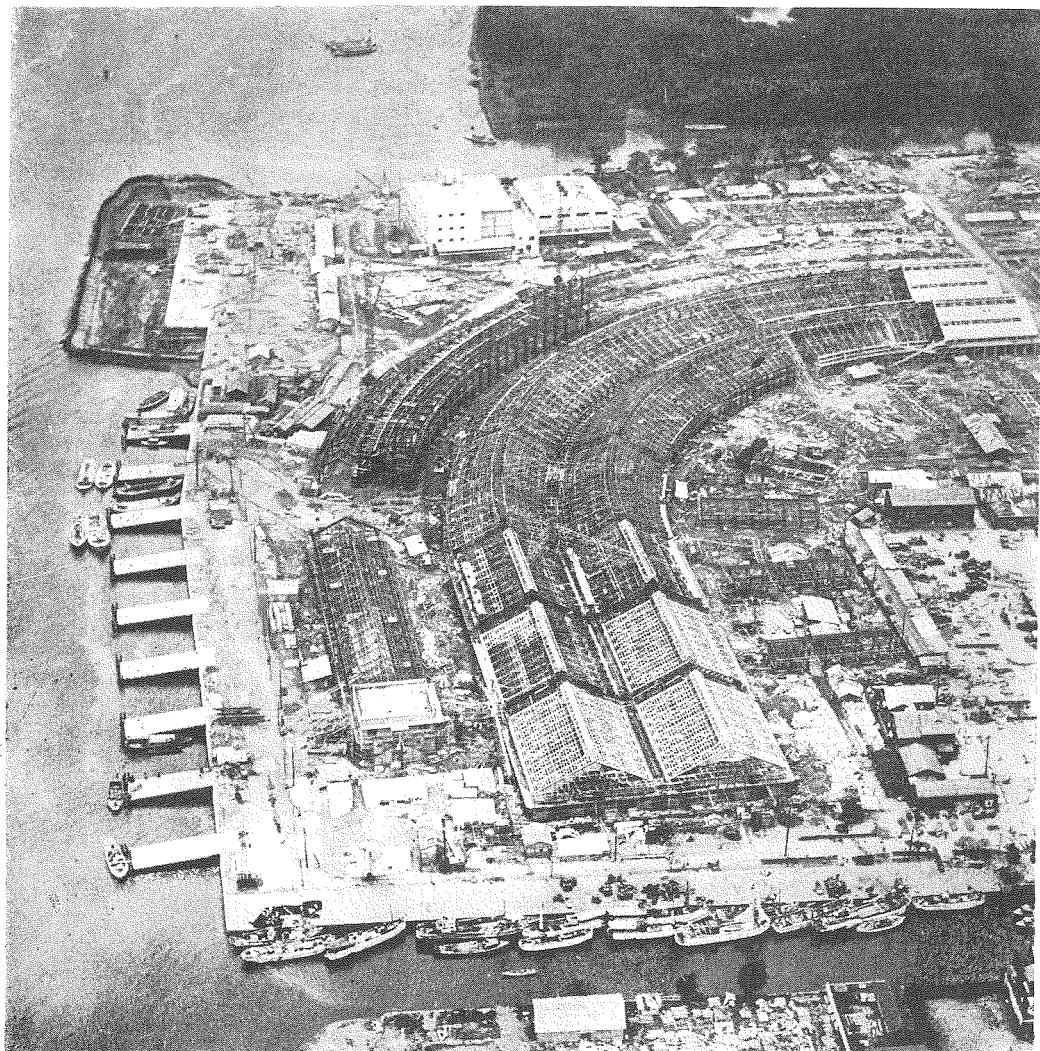
買人は品物を各自の賣場に列陳して買出

人を待つのである。

以上の工事中、魚類部は昭和六年八月大倉土木株式會社の請負で起工日下工事中で、青果烏卵部は昭和六年八月堀内組の請負により着手、七年九月六日竣工した。

(4) 買荷保管所

延面積 1,147坪、魚類部779坪、青果烏卵部368坪で、鐵骨構造平家建波型石綿スレート葺、基礎松杭打地形、床は魚類部は花崗石板石敷、青果烏卵部はアスファルトプロック敷とする。買出入の購買した荷は原則として此



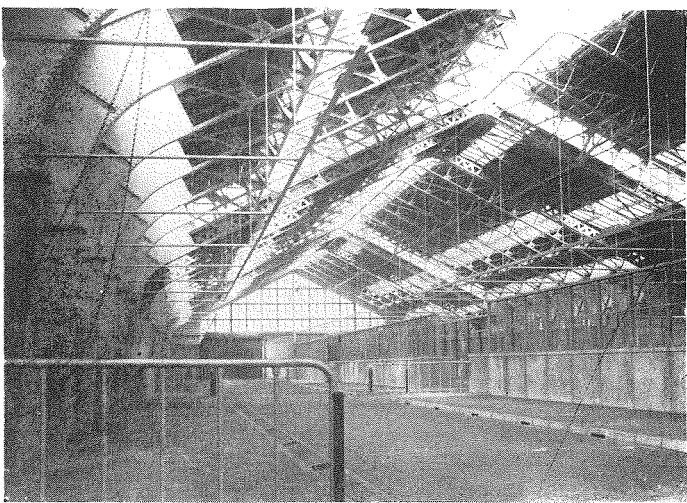
處に集り、これから市内に配給される。

現在は數個の棟に分れてゐるが將來は各棟から棟に屋根を掛け、配給設備の完全を期する豫定である。

工事は魚類部を大倉土木株式會社が請負つて昭和六年八月起工目下工事中、青果烏卵部は堀内組が施工中である。

(5) 冷藏庫及製氷工場

延面積 1,674坪、このうち冷凍



及冷蔵室が 61坪、製氷室 251坪、貯氷室 30坪、機械室 141坪、其他 491坪となつてゐる。鐵筋混凝土造及鐵骨鐵筋混凝土造三階建及二階建、鐵骨造平家建、プラットホーム、一部地下室附基礎はベデスタル杭打地形である。冷蔵室の防熱は炭化コルク板により、その厚外壁6吋、間仕切4吋を標準と

し、室内保持溫度は空室に於て攝氏零下6度乃至12度、試驗室は攝氏零下30度である。冷蔵庫の收容噸數は約2,000噸、冷却は鹹水循環式で一部に冷風裝置を施す

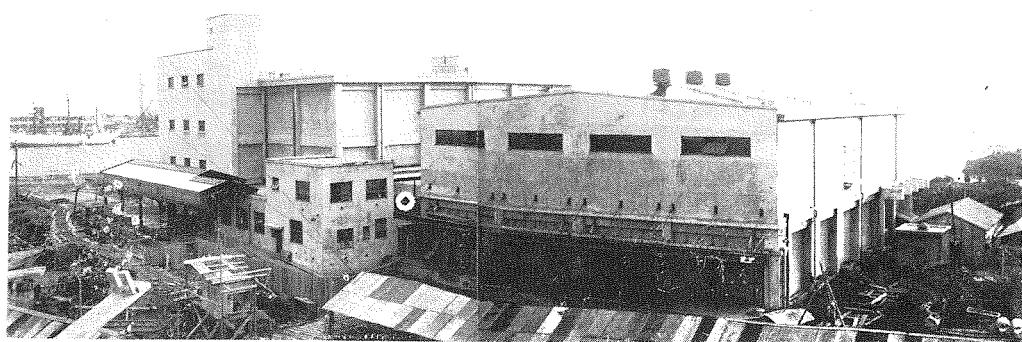
製氷室は二階で、製氷は一日100噸、氷は2基のロアレーターによつて1噸づゝ同時に一階に荷降される。冷蔵庫には2.5噸のエレベーター2基を設備し、各階荷物の運搬並に地下道を通じて卸賣場との連絡を便にする。

本冷蔵庫及製氷工場に於ける動力總馬力數は1,415馬力に達する。尙將來の擴張を豫定し擴張の暁には收容噸數は現在の約2倍となる。

この上部建築は昭和五年十二月に竹田組の請負によつて起工昭和六年末竣工し、冷蔵及製氷設備は神戸製鋼株式會社の手によつて昭和六年未着手、七年六月末竣工を告げた。

(6) 鹽干魚倉庫

延面積 594坪、一階 321坪、二階 244坪、三階 21坪、屋階 18坪で、鐵骨混凝土造二階建、プラットホーム、鐵骨造平家建、基礎は主としてベデスタル杭打地形、將來の擴張を考へ三階に出来る様、又横にも擴げ得る様設計した。收容噸數約1,500噸の豫定である。エレベーター及スパイラルシート各一基を設け床は簀子敷とし、鹽魚から絞り出た魚油は之



を一個所に集める

工事は基礎を東洋コンプレッソル會社が請負つて昭和六年五月に着手同年十月竣工、上部建築は昭和七年一月に起工目下鴻池組の手によつて施工中である。

(7) バナ、醸酵室

延面積704坪、内荷捌所408坪、醸酵室は地階で190坪、其他106坪である。鐵骨造平家建、一部鐵筋混凝土造二階建、地階鐵筋混凝土造、青バナ、の味附及色付を行ふ處で、一ヶ年約30萬籠のバナ、を加工出来る。

(6) 卸賣人賣場鐵道プラットホーム

工事は目下請負契約手續中である。



(8) 附屬商賣場

延616坪、鐵筋混凝土造

平家建三棟、同二階建一棟を建設する。この賣場には市場に附屬して必要な食堂、乾物、雜貨業者等を収容する、以上の工事中、平家一棟は請負契約手續中で、他は現在の假市場移轉後に施工する豫定である。

(9) 牛馬繫留所

面積100坪で、鐵骨造平家建、近在より蔬菜を積んで來た牛馬車の牛馬百頭を繫留出来るもので、現在請負契約の手續中である。

(10) 汚水槽及ポンプ室

延166坪、ポンプ室53坪、汚水槽地下113坪である。鐵筋混凝土造平家建、地下に汚水槽を設置する。一日の汚水總量見込3,370立方メートルに對し、汚水槽の容量は、1,500立方メートルである。汚水は市設下水道を通り錢瓶町下水ポンプ場に流入するが既設下水管徑が小さいため、一時に汚水を放流することが出來ず一時汚水槽内に蓄溜する必要がある。汚水ポンプは口徑20厘の電動ポンプ二臺、口徑25厘のディーゼルエンジンポンプ一臺である。

工事は昭和七年八月十五日
請負人武田市太郎の手により

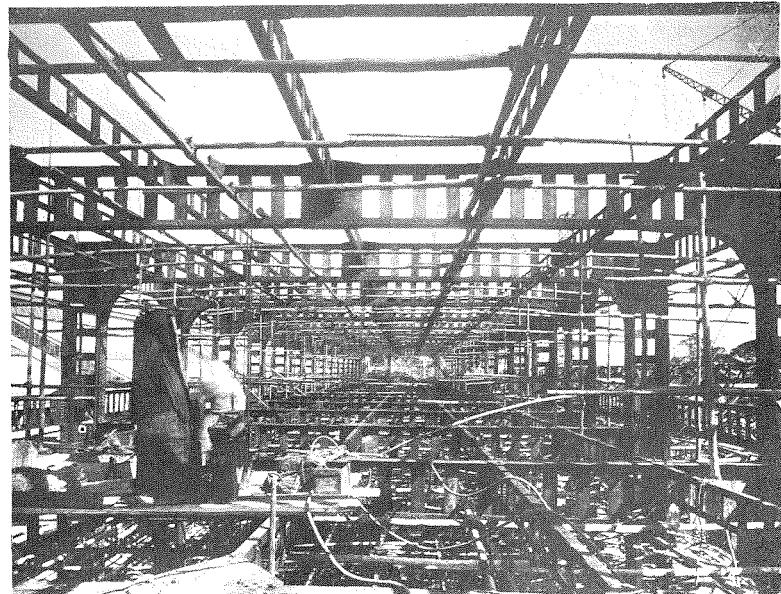
(7) 青果卸賣
人賣場鐵骨

起工、目下工事中である。

(11) その他

以上の建築の外
芋洗場、生洲、鳥
仕別場、蛸茹場、
摩芥取扱場、警察
官派出所及守衛詰
所等を設置する。
而して建築全體の
面積は約 20,000坪
餘となるのである

5. 主要設備概要



(1) 鐵道引込線

汐留貨物駅から鐵道引込線を設置し、鐵道による貨物の運輸に便する、線路延長は場内 2,167 米、場外 543 米、合計 2,710 米あり、場内引込貨車は 10 噸車を標準として、一日平均魚類部に對しては 55 車、青果部に對しては 25 車を見込み、之を二回乃至三回に到着せしめるのである。

(2) 水運による運輸設備

隅田川を浚渫し、船泊の出入碇泊に便し、場の南端には 500 噸級の汽船二隻を繫留出来る繫船岸壁を設け、尙 3,000 噸級の汽船を碇泊し得る鐵筋コンクリート造横棧橋（長さ 60 間巾 10 間）及 500 噸の「船」一隻を繫留出来る浮棧橋（臺船の大きさ長 16 間巾 7 間）を設置する。而して發動機船に對しては鐵筋混泥土造縦棧橋（長さ 10 間巾 4 間）九個、他に築地川東支川に沿ひて長 50 間の青果専用荷揚場を設置する。

(3) 排水設備

排水方法は分流式で、雨水系統及污水系統の二線に大別する。污水とは魚類賣場床洗滌水、食堂使用水及大小便等の總稱で、雨水系

は幹線に集めて隅田川及築地川本川及東支川に放流し、污水系は之を大溜池に導いてポンプアップして市設下水道に放流する。

排水は主として暗渠式とし、建物周囲には地先下水を附し、要所に雨水枡を設けて各幹線に連絡する。

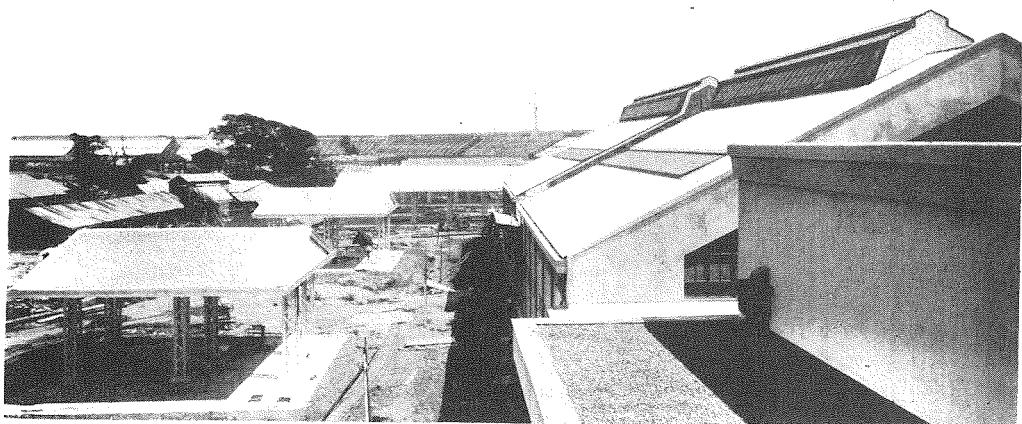
(4) 電燈及電力設備

東京市電氣局京橋變電所から特別高壓送電により場内築地變電所に入つてケーブルにより高壓送電で各變壓室に入りそれから低壓送電によつて所要部分に送る。

(5) 水道

本市淨水道水を引込み、場内の飲料、製氷船舶の給水等に使用する。他は深井戸三本を掘つて貯水池に入れ、それからポンプアップして場内に給水し、洗滌用に供給する。

(昭和 7.11.16) —— 終り ——



(8) 青果仲買人賣場

(9) 近海魚類卸賣人賣場

(10) 青果仲買人賣場

